

○国際協力論

■開設年度：	2010																																							
■開講部局：	共通教育																																							
■科目名：	国際協力論																																							
■英語科目名：	International Cooperation																																							
■前後期：	前期																																							
■履修期：	1期																																							
■開講区分：	毎週																																							
■科目形態：	講義																																							
■単位数：	2																																							
■大分類（科目）：	教養科目																																							
■中分類（分野）：	人間教育科目																																							
■受講学部学科：	全学部全学科																																							
■担当教員：	志賀美英																																							
■担当教員所属：	法文学部経済情報学科																																							
■連絡先（TEL）：	099-285-8950																																							
■連絡先（Mail）：	shiga@leh.kagoshima-u.ac.jp																																							
■オフィスアワー：	毎週月曜日5限目（16：10～17：40）研究室にて。 メールによる相談は常時受け付ける。 研究室：共通教育棟4号館4階「国際資源論研究室」。																																							
■共同担当教員：	伊藤隆文（非常勤講師）：国際協力機構（JICA）青年海外協力隊事務局長、 小川領一（非常勤講師）：（有）ラーバンデザインズ 取締役、																																							
■キーワード1：	☒ 社会的貢献意識 ☐ 視野・判断力・探求能力 ☐ 専門基礎能力 ☐ 情報技術の応用力 ☐ コミュニケーション能力と相互理解 ☐ 心身の健康																																							
■キーワード2：	☐ 社会的貢献意識 ☐ 視野・判断力・探求能力 ☐ 専門基礎能力 ☐ 情報技術の応用力 ☒ コミュニケーション能力と相互理解 ☐ 心身の健康																																							
■授業概要：	世界は今、貧困、民族、人権、環境などさまざまな問題を抱えている。この現実の世界はまだ十分に成熟していないことを示すものである。全人類が豊かに、平和に、そして健康的に生活を営むことができるような国際社会の構築、これが人類の究極的な目標である。この目標へ向けて、世界は今どのように取り組んでいるのだろうか、また今後どのように取り組んでいけばよいのだろうか。本授業では、現在進められているさまざまな形の国際協力を紹介し、併せて受講生に対して国際協力への参加のきっかけを与え、積極的な参加を呼びかける。																																							
■学習目標：	（1）ODAやNGOによる国際協力に関する基礎的な知識を修得することができる。 （2）国際感覚を養うことができる。 （3）日本や世界が何のために国際協力に取り組んでいるのかを理解することができる。 （4）日本のODAの政策、中味、実施体制、実績、問題点等を理解することができる。 （5）国際協力に参加する機会を得ることができる。																																							
■授業計画：	授業のスケジュールは概ね次のとおりであるが、教員の都合によって入れかわることもある。カッコ内は担当教員。 <table><tr><td>第1回</td><td>オリエンテーションー授業の目標、授業のプログラム、評価基準等ー</td><td>(志賀)</td></tr><tr><td>第2回</td><td>世界には、なぜ「発展途上国」が存在するのかー植民地、独立、自立ー</td><td>(志賀)</td></tr><tr><td>第3回</td><td>独立後10年余のパプアニューギニアー依然として続く先進国による資源支配ー</td><td>(志賀)</td></tr><tr><td>第4回</td><td>世界は、そして日本は、なぜ発展途上国に支援を行うのか</td><td>(志賀)</td></tr><tr><td>第5回</td><td>日本の政府開発援助とアジアの経済発展</td><td>(山本)</td></tr><tr><td>第6回</td><td>日本の政府開発援助とその改革問題</td><td>(山本)</td></tr><tr><td>第7回</td><td>技術協力の限界ー中国でのODAプロジェクトに参加してー</td><td>(志賀)</td></tr><tr><td>第8回</td><td>JICAの協力手法ー能力開発とプロジェクト管理ー</td><td>(小林)</td></tr><tr><td>第9回</td><td>廃棄物管理に関するODA技術協力事業の実例ー地方の技術を途上国にー</td><td>(小川)</td></tr><tr><td>第10回</td><td>なぜ、行くのかーボランティア学。「じゃっど」の始まりと16年の歩みー</td><td>(帖佐)</td></tr><tr><td>第11回</td><td>目標は発展的撤退ーボランティアの財源、ODAとの協働はありうるかー</td><td>(帖佐)</td></tr><tr><td>第12回</td><td>日本のなかの外国人学校ーどんな学校があり、どのような課題があるのか？ー</td><td>(朴)</td></tr><tr><td>第13回</td><td>青年海外協力隊事業概要</td><td>(伊藤)</td></tr></table>	第1回	オリエンテーションー授業の目標、授業のプログラム、評価基準等ー	(志賀)	第2回	世界には、なぜ「発展途上国」が存在するのかー植民地、独立、自立ー	(志賀)	第3回	独立後10年余のパプアニューギニアー依然として続く先進国による資源支配ー	(志賀)	第4回	世界は、そして日本は、なぜ発展途上国に支援を行うのか	(志賀)	第5回	日本の政府開発援助とアジアの経済発展	(山本)	第6回	日本の政府開発援助とその改革問題	(山本)	第7回	技術協力の限界ー中国でのODAプロジェクトに参加してー	(志賀)	第8回	JICAの協力手法ー能力開発とプロジェクト管理ー	(小林)	第9回	廃棄物管理に関するODA技術協力事業の実例ー地方の技術を途上国にー	(小川)	第10回	なぜ、行くのかーボランティア学。「じゃっど」の始まりと16年の歩みー	(帖佐)	第11回	目標は発展的撤退ーボランティアの財源、ODAとの協働はありうるかー	(帖佐)	第12回	日本のなかの外国人学校ーどんな学校があり、どのような課題があるのか？ー	(朴)	第13回	青年海外協力隊事業概要	(伊藤)
第1回	オリエンテーションー授業の目標、授業のプログラム、評価基準等ー	(志賀)																																						
第2回	世界には、なぜ「発展途上国」が存在するのかー植民地、独立、自立ー	(志賀)																																						
第3回	独立後10年余のパプアニューギニアー依然として続く先進国による資源支配ー	(志賀)																																						
第4回	世界は、そして日本は、なぜ発展途上国に支援を行うのか	(志賀)																																						
第5回	日本の政府開発援助とアジアの経済発展	(山本)																																						
第6回	日本の政府開発援助とその改革問題	(山本)																																						
第7回	技術協力の限界ー中国でのODAプロジェクトに参加してー	(志賀)																																						
第8回	JICAの協力手法ー能力開発とプロジェクト管理ー	(小林)																																						
第9回	廃棄物管理に関するODA技術協力事業の実例ー地方の技術を途上国にー	(小川)																																						
第10回	なぜ、行くのかーボランティア学。「じゃっど」の始まりと16年の歩みー	(帖佐)																																						
第11回	目標は発展的撤退ーボランティアの財源、ODAとの協働はありうるかー	(帖佐)																																						
第12回	日本のなかの外国人学校ーどんな学校があり、どのような課題があるのか？ー	(朴)																																						
第13回	青年海外協力隊事業概要	(伊藤)																																						
■受講要件：	「国際交流のすすめ」を受講し、単位を取得した者は受講できない。																																							
■成績の評価基準：	毎回10分程度で授業内容等に関するレポートを書き提出する。担当教員がレポートを採点して世話人（志賀）に渡す。欠席者は0点となる。世話人は各教員の成績を集計する。 なお、志賀担当時には1～2回宿題を出し、提出した者には加点する。																																							
■教科書：	『開発教育序論』（志賀美英編著、九州大学出版会） 生協で販売している。																																							
■参考書：	『日本のなかの朝鮮学校』（朴三石著、朝鮮青年社） 『外国人学校』（朴三石著、中央公論新社）																																							
■その他：																																								

更新 ☐上記の情報を変更した場合は必ず左の「更新」ボタンをクリックしてください。

担当教員				
番号	氏名	役職	所属	Email
1	志賀美英	教授	法文学部経済情報学科	